



創立 2011年6月17日  
SAITAMA UKISHIRO  
JAPAN

# 埼玉浮き城プロバスクラブ

2023.2.17 発行

No. 140



例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777  
事務局 〒323-0028 小山市若木町 2-11-2 (幹事 岩崎安裕方) TEL 0285-23-8833・FAX 0285-21-3577  
会長 木島 隆夫 副会長 鈴木 民儀 幹事 岩崎 安裕 情報委員長 椎橋 俊夫

## 本日のプログラム

### 第 141 回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱(プロバス賛歌)  
会長挨拶 会長 木島 隆夫  
幹事報告 幹事 岩崎 安裕  
委員長報告・交流担当・同好会報告  
バスデイ報告と会員スピーチ 須郷隆会員他4名  
卓話「松下幸之助さんの言葉」 加藤 力也  
ハッピーボックス披露 例会副委員長 加藤 力也  
閉会の言葉 副会長 鈴木 民儀  
閉会 例会副委員長 藤倉 新平

<第 140 回例会出席率 会員 30・出席 25・出席率 83.3%>

## 第 140 回 (1 月 20 日) 通常例会

### ■幹事報告

幹事 岩崎 安裕

1. 清水孝男名誉会員ご夫妻で出席いただきました。
2. 令和 4 年度下期会費徴収について。



## 会 長 ス ピ ー チ

会 長 木 島 隆 夫



立春を過ぎたとはいえ、相変わらず寒さ厳しい日々が続いております。先月から、伸び放題の梅を少しずつ剪定しておりますが、心なしか蕾が徐々に膨らんできたようです。自然の営みは着実に進んでいるのを感じました。

先月の例会では、恒例の大澤由子会員(西川扇由女)による新春祝いの舞をご披露して頂きました。会場いっぱい広がった初春の慶びに「今年も息災で前向きにいきましょう」という想いが皆々様の顔に横溢しておりました。大澤先生におかれましては、毎年、私たちの願いを快くお引き受け頂き、改めて衷心より感謝申し上げます。

さて、先日書棚を整理していましたが、科学雑誌「ニュートン」が目にとまりました。2002年5月号「最先端医療で寿命がのびる～人類200歳時代」、今から20年以上前の記事です。ヒトの全遺伝情報を明らかにしてしまおうとするヒトゲノム計画が当時の話題であり、「2003年3月を目標に、ヒトゲノムの全配列を99.99%以上の精度で読む作業を進めている」と記しています。そして「ヒトの遺伝子は3万数千個と予測されているが、まだその多くが発見されておらず、3億の文字列の中から、遺伝子を見出し、それがつくるたんぱく質の構造や機能を解明する仕事はこれからである。しかし、ヒトゲノムが解読されるにつれて、病気に関連した遺伝子の情報は飛躍的にふえ、これが新しい薬や新しい治療法の研究を加速させている。」と続けています。

医療の世界が、医師個人の力量や経験知に頼ってきた時代から、高度で精緻な医療技術中心に移

行して久しいが、21世紀初頭の希望に満ちた展望の数々が興味深く紹介されており、20年後の世界(正に現在です)は、がんをはじめ難病克服に劇的な変化が生じていることを予感させます。個々人の遺伝情報を把握して最適な医薬を選択しながら治療を行うオーダーメイド医療、自分の細胞から組織や臓器をつくり移植する究極の臓器移植、がん細胞を狙い撃つ分子標的薬、がん細胞の浸潤や転移を阻止するがんの凍結・休眠療法、血管新生の阻害療法、がん抑制遺伝子を細胞レベルで効果的に活用しがん細胞のアポトーシス(細胞の自己死)誘導療法、免疫系の複雑な仕組みを利用してがん細胞を叩く免疫療法等々、遺伝子レベルでの革新的な治療法を紹介する一方、医療工学の発展が放射線治療に革命の変革をおこしていると記しています。すなわち、CTやMRIの高度な発展によってがんのピンポイント治療が可能になること(X線三次元照射)だそうです。「2ミリほどの誤差でがんを攻撃できる三次元照射の登場で、放射線治療は外科手術に匹敵する力をもちました。放射線治療は今後ますます重要性が高まるでしょう」と結んでいます。一方、四次元CT(立体動画像)についても言及しています。私のある友人は、現在通院で前立腺への放射線治療を行っていますが、元気に創作活動や事務局仕事をこなしております。

がん治療以外にも、精神疾患の遺伝子的解明、不妊症治療の発展、食べるだけで糖尿病が治る健康機能性イネ、粘膜ワクチン、手術支援ロボット、カプセル内視鏡、虫歯の無痛治療など多方面にわたる医療技術が紹介されています。

これらの中で、現在普及しているものはいったいどれくらいあるのだろうか、興味がわいてきま

(2) 埼玉浮き城プロバスクラブ会報

す。そして、人類 200 歳時代が訪れたとき、人間の日常や人生観がどのような変容をとげているのか、空想科学の領域ですが限りなく想像が膨らんでいきます。

ふと、先日の保泉さんのお話を思い出しました。「裏を見せ表を見せて散る紅葉」(良寛)



ハッピーボックス発表

◎最近、庭の梅の古木を剪定しました。幼き頃登った記憶があり細かい枝が上へ上へと錯綜して大層苦勞しています。梅切らぬバカと揶揄されそうです(木島会長)  
 ◎明けましておめでとうございます。本年も宜しくご指導の程お願い申し上げます。本日の新春の舞い楽しみにしています(鈴木民儀副会長) ◎1月20日は暦にあわせるかのように厳しい寒さ続いていますね。そんな中透き通るようなロウバイの花が咲き冬の山あいを彩っている季節になりました。すさぶ寒風・耐えて咲く・力強さも感じました。(岩崎幹事) ◎今年も新年から比較的暖かい日が続いて良いお正月です。コロナが終息し早く以前の生活に戻る事を祈っております(根岸直前会長) ◎新春の舞を寿ぐプロバス初例会西川扇由女先生有難うございます(清水名誉会員) ◎新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします(渡邊顧問、石塚・柿沼会員) ◎今年も年男です。ピョンピョン飛び跳ねたいのですが転ばぬ先の杖の心境です(小島会員) ◎明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願致します。西川扇由女先生の新春祝いの舞楽しみにし

ております(須郷・藤倉・鈴木秀憲・山田・畠山・森田・田口会員) ◎初春や目につくものはみな美しく、今年も新年を迎えられプロバス例会に出席でき心豊かになりました。本年もよろしくお願いたします(高橋会員) ◎初夢の内容は忘れましたが今後も皆様との交流を通じて楽しい思い出を残して行きたいと思ひます(國分会員) ◎暖かい春が待ち遠しい今日この頃です。本年もどうぞよろしくお願致します(大澤会員) ◎三寒四温の時期コロナ感染とインフルエンザ流行に注意して健康な毎日でありますように(保泉会員) ◎長い間の休み申し訳ありませんでした。多くの病気の治療リハビリで忙しいです気持ちは元気で過ごしています。今年も宜しくお願致します(宮根会員) ◎白内障の手術を受けました。日本でこんなに美しかった。実感です(木村会員) ◎本格的に寒い日々となりました。寒さに負けず元気にやってみましょう(牧野会員) ◎新年おめでとうございます。誕生日祝ありがとうございます(椎橋会員) ◎今年が人生で一番良い年になるよう頑張りたいと思ひます(加藤会員)

文責 加藤力也

埼玉浮き城プロバスクラブ 第140回例会  
令和5年1月20日 於:ホテルガーデンパレス

**新春祝いの舞**  
西川扇由女

「菊の唄」  
咲き切らぬ花を愛でつつ幾年千代を寿ぼう  
新春にふさわしい典雅な曲です。

「娘みこし」  
お祭りに映みこしも踊り出し華やかな賑わいの  
祭りの様子をご覧いただきます。

みんなで踊りましょう「さくらさくら」  
扇子を使ってやさしい日本舞踊の体験と一緒に……

▼娘みこし

▲菊の唄

みんなで踊りましょう[さくらさくら]

お祝い 11・1月誕生日を迎えられた会員

11月誕生日

1月誕生日

<安部節子会員は欠席いたしました>



根岸 友憲会員



渡邊 栄一会員



大澤 由子会員



畠山 恒雄会員



椎橋 俊夫会員



岩崎 安裕会員

## 会 員 投 稿



## 北陸の敦賀という街

鈴木 秀 憲

北陸というと金沢或は富山を思い出すだろう。福井は知っているも敦賀はあまり知られていない。その敦賀を昨年尋ねた。

まずは敦賀市立博物館へ向かう。博物館通りと名付けられた道路に面し、建物は昭和初期をイメージする立派なものだ。係員の説明は展示物より建物に終始し、明治25年に敦賀商工会議所初代会頭大和田莊七（俳優大和田伸也・大和田獏の先祖）が中心に設立し、有力商工業者の地元銀行として発展、昭和2年に本店として建てられた。銀行でありながら市民に開かれたパブリックスペースを持つという公共性を兼ねていたようだ。又、北陸初のエレベーターやレストラン・迎賓室・集会室も備えていた。昭和20年に三和銀行に吸収され、昭和37年に福井銀行敦賀支店となる。



明治期は各地で商工業発展の為、中央の大手銀行の他に、地元資本の銀行が必要とされていた。行田では明治29年に地元足袋製造業者が中心になり、忍商業銀行を設立している。しかし、大和田銀行ほど地域への開放型ではなかった様だ。

敦賀博物館を調べた時に、鉄道博物館がある事を知った。で、早速鉄道博物館へも行く。建物前の直ぐ傍にだだっ広い公共駐車場が有る。その公共駐車場へ入るとその先に、小さいがちょっと目を引く建物が4棟繋がって見え、興味を引く。公共駐車場へ車を置いて見に行くが、看板や標識等が見当たらない。中へ入ると案内嬢が居たので「この建物は何か？」と伺う。建物へ入って「お宅の建物は何か？」と聞くのも変だが、彼女は親切に「この建物は『人道の港 敦賀ムゼウム』と言って……」と話し出した。彼女によると、敦賀港は明治から昭和初期にかけて、ヨーロッパとの交通拠点としての役割を担い、1920年代のポーランドの孤児や1940年代に「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港であるという。この館は数々の苦難を乗り越えて敦賀に降り立ったポーランド孤児やユダヤ難民の史実を、当時の敦賀市民の証言やエピソードの他、今も続く関係者との心温まる交流を紹介し、



命の大切さと平和の尊さを発信しているとの事だった。杉原千畝さんとユダヤ難民の事は2019年6月にリトアニアのカウナスにある旧日本領事館を尋ねているので知っていたが、ポーランドの孤児については知らなかった。帰宅後に調べてみると、第1次世界大戦でポーランド共和国は独立したが、大戦時の混乱の中で多くのポーランド人がロシアに連行され、過酷な条件のシベリアで強制労働させられていた。多くのポーランド人はこの極寒の中で命を落とし、孤児が多く存在していた。このポーランド人を政治的理由でヨーロッパ諸国は救済せずにはいた。ポーランドの救済委員会は日本政府に助けを求め、政府は日本赤十字や軍の援助で孤児を日本へ引き取る事にし、第1陣が1920年7月にウラジオストクから敦賀港へ着いた。餓死寸前だったり、病気で落命直前の子が多くいた。この子達を日本が大切に扱い（病院で治療をし、貞明皇后からは御下賜金を頂いた。全国から寄付が多く寄せられた。）やがて祖国ポーランドへ帰国する事が出来た。この事は2年間続き765名が救われた。これには後日談が有り、阪神淡路大震災や東日本大震災の時に孤児になってしまった日本の子達をポーランドは励まし、ポーランドへ招待し、温かく迎えたそうだ。その1922年から昨年は100年、周年の時を迎えた。

敦賀はウラジオストクからシベリア鉄道でヨーロッパ大陸へ行く玄関口だった。

明治32年に開港、明治35年に敦賀—ウラジオストク間定期航路開設、明治45年には新橋—金ヶ崎（大正8年に敦賀港駅に改称）間に「欧亜国際連絡列車」が運行され、シベリア鉄道



經由でヨーロッパへ半月で行けるようになった。その駅舎が、この「人道の港 敦賀ムゼウム」が建っている場所に有ったそうだ。なおこの駅舎は旧式な姿をしているが平成11年に旧駅舎を模して再建され、平成21年から敦賀鉄道資料館として開かれている。明治15年に長浜—金ヶ崎間が一部を残して開通（明治17年に全通）、日本海側では最初の陸蒸気、明治45年に前出の欧亜国際連絡列車、そして昭和32年にはわが国初の本格的交流電化区間が田村—敦賀間に開設された。そんな事も有って、この資料館には鉄道好きが多く来るそうで、現に私が行った時にも、数人の鉄道オタクらしき人達が居た。

本文後段に「金ヶ崎」という地名が出て来た。歴史好きの方はピンと来ただろう。そう「金ヶ崎の退き陣」だ。信長が越前の朝倉氏討伐に向かった際、信長と同盟していた浅井氏が裏切り信長軍へ背後から攻め掛かる情報を得て、急遽引き返した。この時、秀吉と家康が信長援護の為、殿軍（しんがり）を務めるべく競ったとか。詳細は後の機会に。



### コロナ対策5類で一息

山田 義明

10年ぶりの極寒に驚かされたが83歳の小生には2～3日の寒さで乗り越えられほっとしているが、今年初めの年頭から自身少々驚いた事があった。

コロナ禍も大分慣れてきた矢先、自身の身の廻りで起きた、出来事があった。それは、1月8日長男が、38.8度位の熱が出て、熊谷のイン薬局へ行くと抗原検査キットを購入、慌てて間違えて検査しコロナ受け入れ指定病院の慈恵病院にコロナ感染を疑い、その結果、唾液検査は10日判明との事でTEL待ちになった。結果陽性の電話がありまさか、我が家で陽性者がでるとは、夢にも思わず、幸い娘の知り合いが東京の大学病院の医師だそうでノウハウの方法を連絡を取り即家中の換気と消毒と本人を自室に閉じ込める。

トイレ、ふろ場以外の消毒しトイレ、ふろ場は細部にわたり消毒、全室に空気清浄機が増え、消毒液が増えた。外部より人が入れぬよう施錠、部屋が別、食事も別々だが濃厚接触者に値するのではと、先走って処置したが、幸い熱は1日で下がったが、入院の要請もなく保健所の届け出も必要なしとのことで事なきを得た。

一週間トイレ以外は出入り禁止で食事もドアの外に置き本人は寒い部屋に毛布を頭からすっぽり被って少し哀れに見えたが仕方がない事。家族も初めての経験なので、驚いたが、今は重度な患者でなければ、救急車も来ず病院に入院もしないで、自宅で様子見というのが、かえって怖く見える。後で判った事ですが、唾液の飛沫は3日間で死滅し熱がなければ外出もできるとの事。濃厚接触者も5日以降は完全に外出解禁になるとの事（我が家は1週間と決める）改めて一安心したが……。

昔12歳位の頃右胸が修学旅行に行く前に痛くなり

(水泳の飛び込み練習) 町医者に往診していただいたら、肋膜炎だと診断され夏休みより中学卒業間際まで休学した経験がある。ストレプトマイシンとパステイビオンの服用し自宅で安静に過ごしたが、卒業間際になりレントゲン検査をしたら誤診だろうといわれる。肋膜なら、肺の内部の空洞を石灰化して抑える跡が残るが跡形もなく多分、一時的な肋間神経痛ぞみだろうと、言われる。何のための半年の安静をしたのか飛び込み練習で体を捻ったんだろうといわれる。丈夫な時に休学をし誤診されては、たまったものではない。

後の駅伝競走で健康診断をした折心臓、肺が無類に強いといわれ、自身の体に自信がついたが、昔は肺結核は隔離され群馬の松井田結核病院(旧西田病院)ではだれも近ずけなかった記憶がある。知り合いの人は肺を半分切り取られ片肺だったが、多分今でも健在で居ると思われる、肺病は美人薄命といわれた時もあったし、熊谷江南病院(循環器センター)、大宮の大学病院では病棟が別に分かれている。

空気伝染すると言うことで怖いと考えられがちだが、コロナは飛沫なので3時間で死滅するので、恐れることはないと思うが、用心に越したことはない。

義弟が大昔伊香保温泉の奥の大日向診療所で1年間療養し完治して今は70代で趣味のテニスを楽しんでいる。肺結核の場合はもっと大変な思いをしたであろうと思うが5月以降第5類になれば、インフルエンザ並みになり少しは気分的に楽になることを期待したいし、そうなって欲しいと思う。



## 浮き城俳句会 2月句会 (第118回)

兼題-舞い、当季雑詠

かが 屈みては見上げては山茶花確かめぬ 清水 周

梅舞台おどる師匠に粹覚え 渡邊 雅

節分の習いも遠くなりにはけり 安部節子

梅の香や下天の夢を舞う漢 田口半茶

笹鳴きや指す手引く手の舞扇 大澤扇由女

寒星の光の中に逝く句友 鈴木理翠

春の舞い愛でて願うは皆の幸 須郷岐川

初句会言葉交わせし知己逝けり 木島 泉

何処へゆく論語・そろばん長き冬 小島ぼん太

寒鯉や今宵かぎりの桶月 高橋菁村

次回例会案内 3月17日(金)第142回通常動例会 卓話 「未定」 高橋晋 作会員

埼玉浮き城プロバスクラブ ブログ 第140回通常例会 会報No.139 更新しました。